

新潟県

公民館だより

2



February 2025
No.835

TOPICS

トピックス ①

令和6年度

新潟市公民館全職員研修会の開催

公民館職員の意識改革や資質の向上を目的に、公民館全職員を対象とした研修会を開催されました。

【日時】

令和6年12月3日(火)・19日(木)の2回に分けて開催

【会場】

3日：黒埼地区公民館 19日：亀田地区公民館
(3日の黒埼会場に寄せてもらいました。)

【第1部】

中央公民館の伊藤聡館長補佐の開会のあいさつのおと、3つのプログラムがありました。

① 新潟市生涯学習課の山口横課長が「地域と学校パートナーシップ事業とコミュニティスクール」『地域とともにある学校』を目指して」の講義を行いました。

② 中央公民館の片桐康正係長が新・教育ビジョンについての解説と公民館で使用している教育ビジョンシートの書き方、ポイントなどについて講義を行いました。

③ 浜松市富塚協働センター主任社会教育士 野島京登氏が、オンラインで浜松市の事例発表を行いました。

「実践から学ぶ笑顔のまちづくり」をテーマに、「幅広い世代交流の実現 あおぞら協働センター」「大学生サークルによるよさこい披露」「第1〜4回こみゼロフェスタ」などの取組について、画面を使つての講演がありました。



講師 片桐中央公民館係長



講師 山口生涯学習課長



伊藤中央公民館館長補佐

【第2部】

グループワーク「新潟市の公民館職員に今求められていること」

東地区公民館の新田直子主査のリードで、「自館や自分の役割を振り返る」「情報交換し助け合う仲間を見つける」「各自が今やるべきことに気づきつづける」を目標に、真剣なグループワークが繰り広げられました。



進行役の新田社会教育主事



各班で真剣にグループワーク



講師 野島京登氏



若い世代の参加も多い様々な取組

※公民館運営のコツ…『積極的な声掛け』『章取り、清掃』『人たらしたれ』を心掛け、「幅広い世代交流の実現」という話が印象的でした。

トピックス ②

中越地区公民館連絡協議会第2回代議員会 下越地区公民館連絡協議会第3回代議員会

中越地区公民館連絡協議会第2回代議員会(R6.11.19 小千谷市民生涯学習センター)、下越地区公民館連絡協議会第3回代議員会(R7.2.10 新発田市民文化会館)がそれぞれ開かれ、中公連、下公連の解散が決まり、最後の代議員会となりました。

中公連から中越地区主事会の解散に伴う寄付金421,000円と下公連から解散に伴う残金37,513円を県公連にご寄付いただきました。県公連ではありがたい基金に繰り入れ、今後の活動に役立たせていきます。

トピックス3として下越地区公民館関係職員等研修会兼下越地区社会教育研究会の報告を6ページに掲載してあります。

特集

全国公民館セミナー 参加者レポート

第36回全国公民館セミナーが令和7年2月19日(水)～21日(金)までの3日間、東京都千代田区にある丸の内マイプラザホールで開催されました。

講師が一流で研修内容が充実していることから毎年全国各地から多くの参加者があります。

新潟県からは2人の方が参加しました。

〈参加者〉

長谷川 明寿 さん(上越市立中央公民館)
新保 ひより さん(小千谷市公民館)

「ツナガルシクミ」を
みんなで作る

上越市教育委員会

中央公民館 長谷川 明寿

初めて全国公民館セミナーに参加しました。表題のテーマをもとに個性あふれる講師の方々のプレゼンと参加者同士の交流で公民館の新しい可能性を学べた大変有意義なセミナーでした。その中で私が特に心に残った言葉を中心に挙げてみます。

・「ツナゲルというかツナガッテしまっ」

私たち公民館職員は「参加者をつなげなければ」という課題意識が強く前面に出てしまいがちです。人と人は無理につなげるものでなく自然とつながっていくことが望ましく自然です。無理にツナゲ

ルよりも関わる人が自ずとツナガッテしまっ公民館を目指す。セミナーの冒頭にこの「ツナガッテしまっ公民館」をコンセプトにみんなで作っていくことが提案されとても納得することができました。

・「入り易くて抜けやすい ゆるい場」

那覇市若狭公民館

館長 宮城 潤

移動型公民館で有名なバーラー公民館のコンセプトとして「入り易くて抜けやすいゆるい場」であることが強調されました。手順として①知ってもらう(P.R)、②関わりたいと思ってもらう(興味関心)、③安心できる場所の提供(居場所)、④アイデアが実現できる(自己実現)、⑤成功体験を重ねる、⑥振り返り(共有)のプロセスを大切にします。特に相手の興



味関心に関心をもつことを大事にして、聞く姿勢が大切だということです。参加者の思い通りに寄り添うことがツナガルためのスタートになる重要性を感じました。

・「二つの視点で俯瞰してみる」

NPO法人プラス・アーツ

理事長 永田 宏和

地縁関係と時間軸という二つの視点で活動を俯瞰してみる。地縁関係とは活動に関わる「人・事・物」に何があるか裾野を広げてみることで、他に連携・連帯できることを探る。そうすることで活動の広さや深さが増す。それには公民館が様々なステークホルダー(専門分野の人の力を借りるためのハブになることがポイントである。また、時間軸で俯瞰することは活動の前、実際、後を連続してみることでそのプロセスを辿りながら何のための活動だったのか、活動によってこれからどんな影響が出てくるのかを意識する。それが活動を持続させ進化させていくことにつながる。本気のパン作り講座「パン爺」の活動展開が具体例として示されていました。

・「不完全プランニング&＋クリエイティブ」

完結型の講座よりも不完全なプランで当事者が主体的に関われる余白を残す。ある意味隙のあるプログラムが必要である。同時にその余白を楽しめるようなクリエイティブな活動を用意することがより相乗効果を生む。K-I-T-O-Oがブラ

ンニングした「ちびっこうべ」の取組が実践例として挙げられこちらも目から鱗でした。

・「感性・感情でツナガル」

アーツセンターあきた

理事長 藤 浩志

人と人がつながるといえるのは目に見えない事象だけでなく目に見えないものであり感性や感情つまりエモイものでつながっていく。面白いという感性を大切にしてみたい。面白さを感じるとそこには、「面白い人」「面白い人(人材)」「面白いところがある(空間)」「面白いことがある(モチーフ)」それを知りたい、それと出会いたい、そしてみんなが心が動く時間を過ごしたいという思いが大切である。そして、私たちの地域にまだまだ面白い人や場や事があるので地域をもっと歩き回って観察しながら面白いと思うものを探していくことが大切に感じました。

・「公民館は幕の内弁当」

文教大学人間科学部

准教授 青山 鉄兵

公民館で行われる活動は多種多様であり、それはちょっとした美味しい食材が入った幕の内弁当に例えられる。公民館はだれとでもツナガれる可能性のある居場所である。例えば貧困家庭のための子ども食堂よりもみんなが利用できる子ども食堂の方が困難を抱える子が来やすい。対象を絞り過ぎると却って敬遠されてしまふ。公民館的なユニバーサルアプローチ効果的なことがある。

今回のセミナー参加を通じて全国の公民館関係者の方とツナガれたことが何よりの成果です。このような機会を与えていただいたことに心から感謝です。有難うございました。

「ツナガルシクミと関わり代」

小千谷市公民館 新保 ひより

『ツナガルシクミ』って簡単にはつくれないよなあ。」

これがセミナー開催要項を見た時の、私の正直な感想でした。公民館の基本的な機能である「つどろ・まなぶ・むすぶ」の3つの役割。「つどろ」と「まなぶ」は講座等での提供ができますが、そこから「むすぶ」ことが本当に難しい。

このセミナーに参加することで、「むすぶ」のヒントを見つけれられるのでは、と思い参加させていただきました。

【1日目】シンポジウム

「公民館のツナガルシクミのデザイン」3名のパネリストの共通点は「アート」やデザインとの観点から「ツナガル」ではなく「ツナガル」シクミをどのように作っていくかという講演でした。「余白」と「ふりかえり」の2つの言葉が印象に残っています。

「余白」は「完璧にしない」ということだそうです。仕事をしているとつい「完璧」を求めてしまいがちですが、「完璧」なものに関わりたいと思う人は少ないで

す。関わったところで、できることからいからです。

ある程度形は作れるけれど、興味を持ってくれた人のための「関わり代」を残しておく。「関わり代」が残っていることで、市民が自然と巻き込まれてしまう空間を作ることができるそうです。このバランスが非常に大切だと感じました。

「ふりかえり」は、事業終了後に市民向けの記録を残すということでした。記録を残し、発信することで、今回の事業には参加できなかった方も事業の内容を知ることができ、また報告を見て興味を持った方とつながることができるといってお話でした。

今までの自分は、行政の記録として実施報告書等を作成していましたが、市民向けの広報としては使っていませんでした。実施報告書作成は後回しにしがちでした。お話を伺って記録の大切さを実感したので、ホームページやSNS等で市民向けに報告を行っていきたいと思っています。

【2日目】ワークショップ

「ツナガル公民館をみんなで考える」

文教大学准教授の青山鉄兵先生から、社会教育がどのように地域づくりと関わることができるのかを教えてくださいました。

近年は地域づくりが大切だとよく言われます。社会教育では「人づくり」も大切にされていますが、人づくりと地域づくりを媒介する「つながりづくり」にも

注目が集まっています。そうです。プログラムの中にいかに参加者がつながるためのしかけを用意できるかが大切



ワークショップでは、目的を意識したプログラム改善に取り組みました。プログラムのねらいにつながればどんなアレンジにしてもよいというルールで意見を出し合い、様々なアイデアが生まれました。私たちのグループは公民館文化祭のプログラム改善に取り組んだのですが、その中で「島全体を会場にする」というアイデアが出ました。文化祭の会場を外にすることで作品を気軽に鑑賞でき、地域の中で回遊性が生まれます。作品の管理や雨風の心配はありませんが、ぜひ挑戦したいと感じたアイデアでした。

【3日目】事例発表

「公民館のツナガルシクミの実際」

2名の方から事例を発表いただきました。どちらの公民館でも「事業に人が来て、来た人が事業の提案する」という循環が起きているそうです。

この素晴らしい循環を起こすためには、日頃からの市民との付き合い方や信

頼関係が重要となります。市民に公民館という存在が認知されることと、持ち込まれたアイデアに対応する行動力が必要なのだと感じました。

また、1日目に引き続き、事後広報に力を入れているというお話がありました。やはり記録・広報は大事なのだと再確認できました。

今回の研修を受け、公民館活動と地域づくりが非常に強い関係で結ばれていることを再認識することができました。人とひとがうまくつながってしまう、そんな公民館を目指して、この学びを日頃の業務に活かしていきたいと思っています。





村上市教育委員会生涯学習課 社会教育主事 藤井 悠介

普段何の気なしに見ていた動画もいざ投稿する側になると視点が変わってくるもので、視聴者の目を引いて再生してもらえそうなサムネイルを考えてデザインしたり、古語などの難解

私自身も私生活でYouTubeをよく視聴していますが、まさか行政職員として動画を編集・投稿することになるとは思ってもいませんでした。

村上市の中央公民館では数年前から公式YouTubeチャンネルを運営しています。講座を実施する際に録画していた映像を投稿したり、ライブ配信でイベントの様子を生中継したりと、色々とチャレンジしている最中です。

出雲崎町公民館文化サークル協議会について (出雲崎町中央公民館)



出雲崎町中央公民館では、「出雲崎町公民館文化サークル協議会」を設立し、町民一人ひとりが積極的に文化活動に参加し協力できる体制を整えています。

現在、協議会に加入しているサークルの活動について紹介します。

『英会話サークル』

英語でもっと人と交流したい。自分を磨きながら、楽しく毎日を充実させたい。本場の英語に触れ、簡単な英会話を取得し、海外旅行等で役立つ

つ英語をグループで楽しく学んでいます。

『書道サークル』

書道の基本を楽しみながら学び、文字を正しく美しく書くことを覚え、実用として生



英会話サークル



書道サークル

活の中で生かす。また、書道を日本が誇る伝統文化の一つとして、その魅力を知ることと心を豊かにし、書を趣味として個々の様々な書風を表現していくことを目的に実施しています。

『ガーデニングサークル』

色々な草花を使ったインテリアを楽しむ、花つくりで重要な土・光・温度・水の管理法や季節の花の選び方・育て方など、基礎からじっくり学んでいます。



ガーデニングサークル

な言葉には訳文の字幕をつけたり……。他の市町村に目を向けてみると、地元の大学生にチャンネル運営を任せて、柔軟な発想で動画投稿している公民館もあるようです。

一度工夫を凝らし始めると際限のない編集・投稿作業ですが、それでも視聴数は思うように伸びません。YouTubeというプラットフォームと、そこにある学習コンテンツの膨大さを実感します。どうしたらもっと見てもらえるか、

日々頭を悩ませているところ

です。

少子高齢化やICTの発展に伴って公民館という施設や実施する事業に求められるものも少しずつ変化しているように思いますが、まったくの別物になるわけではないと思います。「つどう、まなぶ、むすぶ」という公民館の根幹にある理念を、ICTを活用することでますます発展させていきたいと、私は考えています。



実践記録シリーズ

テーマ：谷浜・桑取地区の魅力をSNSで発信しよう

上越市立谷浜・桑取地区公民館

はじめに

スマートフォンの普及に伴い、公民館講座「スマホ教室」を、令和3年度に開催しました。そこに参加した受講生がSNSに大変興味をもち、「自分たちの住んでいる地域の魅力を発信したい」ということで「谷浜・桑取地区の魅力を発信する会」を立ち上げました。少人数ではありますが、定期的に活動し、地域の魅力をInstagramで発信しています。

活動のきっかけとなった「スマホ教室」

専門学校の学生さんたちから、スマートフォンの基本的な操作方法と安全で便利な使い方を学びました。和やかな雰囲気の中で、受講生も孫と同年代の学生さんに親しみを感じ、一緒に自撮りをしたり、お喋りに花が咲いていました。普段使用して困っているスマートフォン操作について質問している姿が多く見受けられました。



学生によるマンツーマン指導

「谷浜・桑取地区の魅力を発信する会」の活動

月に一度集まって、Instagramの基本を勉強したり、投稿案を話し合っています。また、地域の魅力を自ら撮影、投稿し、「いいね」をもらうことにより投稿する楽しさを実感しています。

【投稿方法】

「#桑取郷」をつけて投稿する（投稿を集めると谷浜・桑

取地区のアルバムになる）
・誹謗中傷はしない
・個人を特定できる写真は許可なく投稿しない
・プライバシーなことは避ける

【投稿事例】

・豊かな自然（海、川、山）
・伝統文化、伝統行事

公民館としての関わり

令和4年度から公民館講座「谷浜・桑取地区公民館の魅力を発信」を開催しています。Instagramの投稿方法や効果的な写真の撮り方などを学ぶとともに、地域の推しスポットを探求し、桑取産の食材を使用したランチを味わって撮影した写真を投稿しました。参加者からは好評で、魅力発信の輪が広がっています。



写真の撮り方を学ぶ



古民家Caféでランチ

これから

現在、「#桑取郷」を付けてInstagramに投稿していただいている方が約20名、投稿件数は500件以上となっています。谷浜・桑取地区公民館として、地域活性化の一助となるように、これから「谷浜・桑取地区の魅力を発信する会」と連携し、活動の継続を支えていきたいです。



子どもの里神楽



嫁祝い



夢に出てくる盆踊り



緑の絨毯

公民館総合補償制度

公益社団法人 全国公民館連合会

この制度は公益社団法人全国公民館連合会の団体制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は名称を問わずご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポートします。

1. 行事傷害補償

全公連見舞金制度
+災害補償保険(公民館災害補償特約、熱中症危険補償特約)

2. 賠償責任補償

賠償責任保険(施設所有管理者特約、昇降機特約)

3. 職員災害補償

全公連見舞金制度+傷害総合保険
【就業中のみの危険補償特約、入院保険金支払限度日数変更特約(支払限度日数180日)】

補償範囲や対象者が広い制度です。

年1回の手続きで安心です。

掛金には割引制度もあります。

*このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳細については取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

■取扱代理店
(お問い合わせ・資料請求先)

エコー総合補償サービス株式会社

〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9

TEL: 0120-636-717 (通話料無料) FAX: 0120-226-916 (通話料無料)

(受付時間: 平日9:15から17:00まで)

■引受保険会社

損害保険ジャパン株式会社

公務文教営業部 文教室

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL 03-3349-4679 (受付時間: 平日9:00から17:00まで)



(SJ23-13019) 2024年1月15日作成 [2401K-例]

素顔拝見



阿賀野市ふれあい会館

(阿賀野市生涯学習課)

田原 智美さん

令和5年4月からふれあい会館で公民館業務を担当して今年2年目の田原智美さんを紹介します。

田原さんは、1年目からふれあい会館の施設管理業務や市民対象の公民館講座、高齢者学級、そして笹神図書館業務などを担当しております。

業務に対しては、真面目かつ几帳面な性格が適しており、窓口業務から講座の立案・遂行まで、誠心誠意に取り組む姿勢は素晴らしい。「無理しないで」と声をかけてしまうほどの頑張り屋さんです。

担当業務はもちろん、職場の忘年会においてもその能力を発揮しており、会の進行から余興の演出まで全てを取り仕切る雄姿に、全員が納得の拍手喝采でした。

そんな田原さんのストレス発散方法は、大好きなチーズを食べることで切り替えを行っており、自身自身のコントロールも上手に心がけています。

この2年間、様々な業務にも真摯に取り組む、目標に向かって一つ一つ着実に成長していく姿を見てとても頼もしく感じています。これから市民のために活躍される田原さんに期待しています。



(生涯学習課 高橋 隆夫記)

トピックス 3

令和6年度下越地区 公民館関係役職員等研修会 兼 社会教育研究集会

令和6年度下越地区 公民館関係役職員等研修会兼 社会教育研究集会が令和6年10月18日(金)に午後日程で、佐渡市佐渡島開発総合センターにおいて来賓を含めて77名の参加で開催されました。

下公連の井浦智明会長の開会のあいさつの後、佐渡市社会教育課教育指導主事 坂井一美氏が「地域クラブ活動と地域との関わりについて」の講演を行いました。

佐渡市では社会教育課が中心となり「地域人材で成り立つ佐渡市地域クラブ活動」の推進に取り組む、地域スポーツクラブ活動だけでなく地域文化クラブ活動にも取り組んでいること、スキップ型とエンジョイ型を用意して幅広いニーズに応えていることなどが紹介されました。

事例発表では五泉市生涯学習課 椿貴志氏、聖籠町社会教育課 高橋愛氏、新潟市社会教育委員 加藤康雄氏が日頃の実践を画面や資料を使って分かりやすく発表されました。



講師の坂井教育指導主事



井浦下公連会長あいさつ



会場の佐渡島開発総合センター

編集後記

令和6年度は11月の関東甲信越静公民館研究大会新潟大会の開催に、上越市をはじめ県内市町村が一丸となって取り組んでいただき、大変好評であったことに改めて感謝申し上げます。一方、県の各教育事務所の社会教育課が廃止されたことから、中公連、下公連が今年度をもって解散になるなど激変の年でもありました。

県公連では来年度も、上・中・下越地区で地区全体の市町村に呼び掛けて行う研修に研修費を支出させていただきます。県公連では財政面や活動面に工夫しながら、現状に応じた活動を続けていけるよう到来年度も努力してまいります。(五井)

インフォメーション

毎年、各市町村から県公連事務局に広報誌、文芸誌や各種資料などをお送りいただきありがとうございます。

今年度は、魚沼市、南魚沼市、聖籠町、新潟市小須戸地区公民館、村上市、小千谷市、新発田市、刈羽村などから拝受し感謝申し上げます。参考にさせてもらっております。